

平成27年1月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,022	8,546	4,303	4,243	△ 7	2
2 千 石	3,426	6,792	3,413	3,379	△ 8	3
3 内 山	4,913	7,132	3,863	3,269	△ 7	△ 10
4 大 和	3,192	6,501	3,256	3,245	△ 1	△ 6
5 上 野	7,193	15,398	7,551	7,847	△ 4	△ 10
6 高 見	6,746	13,015	6,267	6,748	△ 10	△ 19
7 春 岡	6,430	10,522	5,625	4,897	△ 15	△ 16
8 田 代	11,257	21,498	10,310	11,188	△ 11	△ 21
9 東 山	9,687	18,988	9,266	9,722	△ 11	△ 35
10 見 付	4,314	8,317	4,176	4,141	△ 28	△ 19
11 星ヶ丘	3,340	6,578	2,946	3,632	2	4
12 自由ヶ丘	3,481	7,657	3,508	4,149	△ 12	△ 20
13 富士見台	6,353	15,599	7,222	8,377	3	21
14 宮 根	3,711	8,422	3,979	4,443	7	11
15 千代田橋	3,579	8,650	4,047	4,603	7	6
千 種 区 計	82,644	163,615	79,732	83,883	△ 95	△ 109
H26.1.1	81,854	162,897	79,221	83,676	△ 14	10
対 前 年 比	790	718	511	207	△ 81	△ 119
名 古 屋 市	1,046,978	2,277,595	1,122,010	1,155,585	△ 40	△ 110
愛 知 県 (H26.12.1)	3,031,852	7,447,161	3,720,474	3,726,687	1,354	476

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	113	115	△ 2	793	900	△ 107

【参考】

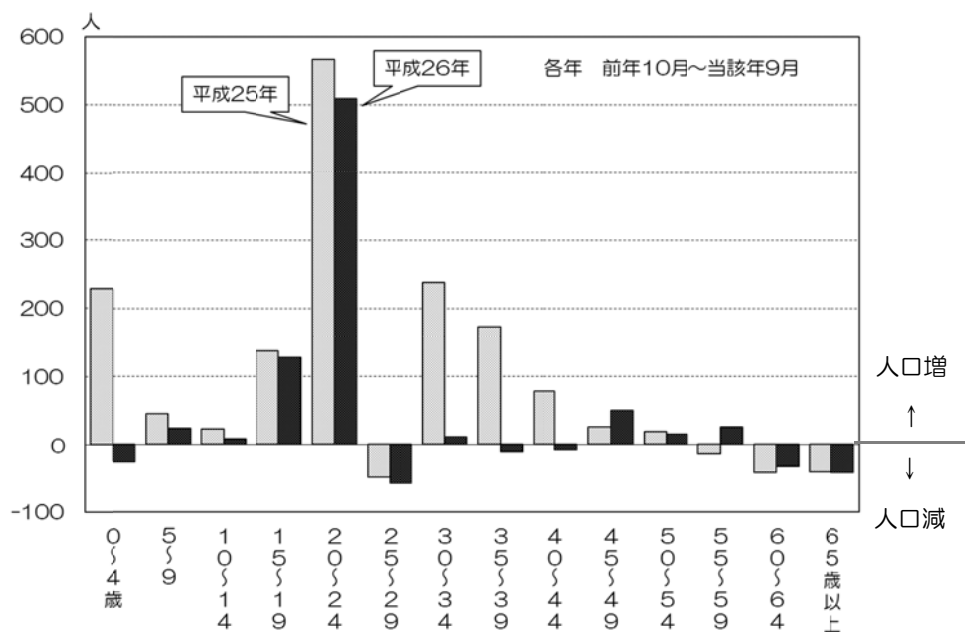
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成 7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,132	これまでの最少人口	
平成 2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものです。(平成24年7月中の集計までは、毎月の外国人登録の異動数も加減して推計しています)

千種区の5歳階級別社会増減数の推移

平成27年1月1日現在の千種区の家帯数は82,644家帯となっており、人口は163,615人となっています。今回は愛知県人口動向調査（名古屋市分）に基づいて、本区の年齢5歳階級別社会増減数（転入数－転出数）をみていきます。

図1:年齢5歳階級別社会増減数（平成25年と平成26年の比較）

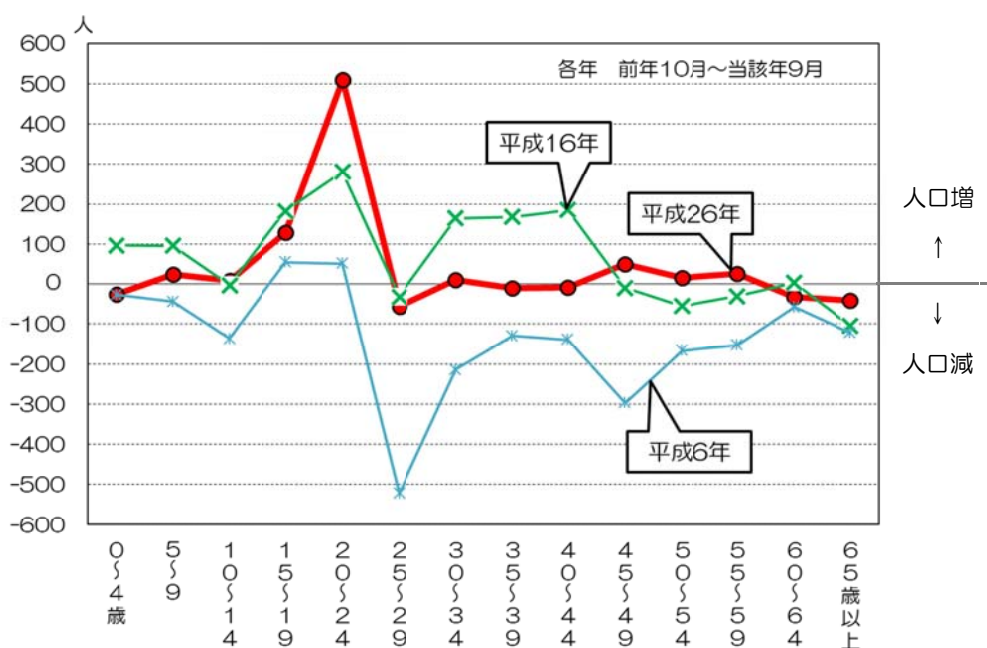


平成25年と平成26年の年齢5歳階級別社会増減数（図1）をみると、いずれも15歳～19歳、20歳～24歳で大幅な社会増（本区への転入超過）がみられます。

その他の年代をみると、平成25年は社会増であった0～4歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳が、平成26年には社会減（本区からの転出超過）に転じています。

他方、45～49歳、55～59歳、60～64歳では、平成26年の社会増減数のほうが、平成25年よりもわずかながら大きくなっています。

図2:年齢5歳階級別社会増減数の推移



平成6年から平成26年までの10年ごとの年齢5歳階級別社会増減数の推移（図2）をみると、15～24歳に本区に転入し、25～29歳で転出するという傾向に大きな変化はみられません。もっとも、20～24歳の社会増減数は、平成6年から平成26年にかけて次第に大きくなっていき、25～29歳の社会減傾向も、平成6年から改善しています。

また、その他の年代について、平成6年と平成26年を比較すると、社会増減数はおおむね増加しています。